

生活科部会

研究主題

子どもが生き生きと活動するための教師の支援の在り方

1 主題について

昨年度と同様に子どもたちの主体的な活動を促すための手だての在り方を研究するため、本主題を設定し、授業研究とテーマに基づいた実践紹介を行うことにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定 年間計画作成	10月25日	第2回総合研究会 授業研究会 テーマ研究

※第2回総合研究会には、大館市内の幼稚園・保育所の先生たちも多数参加した。

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日(火) ・会 場 大館市南小学校
- ・単元名 「みんなであそぼう 手作りおもちゃ大集合」
- ・授業者 大館市立南小学校
教諭 白鳥 郁子 渡辺 幸子 関 文人 TT講師 金釜 解子

① 授業者から

- ・4月から1, 2年生でペアを作って学習してきている。
- ・保育士さんをゲストティーチャーとして迎えて学習するのは2回目となる。
- ・「保育園の子どものために」というめあては難しかったかもしれない。

② 協議

《授業について》

- ・「先生、いつやるんですか。」という言葉に意欲や主体性が表れていた。
- ・子どもたちが「びっくりさせたい。」というように一人一人思いをもっていたと思うのでそれを言葉で返してあげるとよかったのではない。
- ・アドバイスカードが効果的だった。次の活動につながる。
- ・子どもの気づきを促す言葉かけがよかった。

《小中連携について》

- ・体験入学1回だけだと交流が深まらないので、繰り返しの交流が必要である。
- ・保育士が授業に参加して「幼稚園、保育所の子どもたちが待っているよ。」と声をかけるだけで意欲付けになる。
- ・小学校の授業を見る機会はあるが、交流はなかなかできない。
- ・小学校のいろいろな行事に参加している。近いので日常的に交流ができています。
- ・教師が行ったり来たりするだけでお互いに勉強になると思う。
- ・運動会の練習、お店やさんなど、がんばらず気軽に続けていくのがよいのではない。



【ゲームの説明をする子どもたち】

(2) テーマ研究

《各校の実践紹介》

- ・「まちたんけん」で質問してきたことを一人一人が書いて新聞を作った。記事に合う写真をたくさん準備しておく，記事を書く紙に両面テープを貼っておくなどの工夫をして取り組んだ。
- ・繰り返し探検を行ったことで，気付きに広がりが見られ深まりがあった。多様な気付きを引き出すためにビンゴカードを活用した。
- ・熱帯魚の飼育活動を通して，生き物の変化や成長に気付かせる学習を行った。飼育は比較的簡単で子どもたちが達成感をもつことができた。
- ・幼稚園・保育園児を招待して，学校探検をしたり工作を作ったりする授業を予定している。

(3) 指導助言（小玉 リツ子 指導主事）

《授業について》

- ・技能，思考，心情面が単元を通して成長したことが伺える。
- ・キーワードは①かかわり②じっくりたっぷり繰り返し③安全である。
- ・人との関わりを大切にしたい。おもちゃを作りの名人になることではなく，おもちゃを通して人と交流することが目的である。コミュニケーションを取りながら遊ぶ楽しさを味わわせたい。
- ・活動の時間は保障されていたが，もっとじっくり対象に向かえるとよかったのではないか。アドバイスを紙に書くのもよいが相手の意図がわからない。話しながら試していくのがよかったのではないか。
- ・安全に行動することを態度として身に付けさせたい。子どもたちが判断できるように「走らないでね」等の声かけを繰り返し行ってほしい。

《全体を通して》

- ・生活科の活動や体験を大事にしてほしい。
- ・気付きの質を高める支援が大事である。一人一人の思いを汲み取るには，風化しないうちに表現させることである。活動中の思いを引き出すには，声かけをしていくしかない。引き出した言葉をさらに返して確認するとよい。
- ・評価規準をさらに具体化した「予想される児童の姿」を指導案の中に明記して見取ってほしい。
- ・新聞作り等の活動では，一人一人が記事を書くことが重要である。ばらばらの認識を大事にしたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ゲストティーチャーとして授業に保育所の先生が参加し，幼稚園・保育所の先生たちが研究会に多数参加くださったことにより，教科としての生活科だけでなく，生活科を通した幼保小連携の話合いも行うことができた。
- ・実践紹介からは，これからの授業や活動のヒントを得ることができた。

(2) 課題

- ・人とかかわる力を育て，気付きの質を高める支援のあり方を今後も研究していく必要がある。